

実施計画書（破碎設備申請用）

1. 基本情報

個人または法人名	株式会社****		
事業実施代表者	氏 名	*****	
	役 職	**	
	所在地	*****	
	TEL	*****	
	E-mail	***@***.jp	
事業実施担当者	氏 名	*****	
	役 職	**	
	所在地	*****	
	TEL	*****	
	E-mail	***@***.jp	
経理責任者	氏 名	*****	
	役 職	**	
	所在地	*****	
	TEL	*****	
	E-mail	***@***.jp	
設備を導入する予定の 事業所名、所在地※1	事業所名	株式会社**** *****事業所	
	所在地	*****	
自動車リサイクル法に基 づく許可の取得状況（必 須）※2	許可の種類		許可自治体
	☒	解体業許可	*****
	☐	破碎業許可	*****
環境マネジメントシステ ム（EMS）の認証取得状 況※3	認証の種類		登録番号
	☒	ISO14001	***-**-3333
	☐	エコアクション 21	

※1： 実際に補助事業を行う場所の事業所名、住所を記入し、事業所内における導入設備の配置計画図を添付してください。

※2： 上記事業所の自治体での許可取得状況をご記入頂き、許可証の写しを添付してください。

※3： 環境マネジメントシステムの認証を取得されている場合は、登録番号を記載し、認証の証明書の写しを添付してください。

2. 資源回収インセンティブ制度に係るコンソーシアムの組成状況

資源回収インセンティブ制度の審査申込状況・コンソーシアム組成状況	「資源回収インセンティブ制度_審査申込書」の提出状況※1	☒	審査申込書 提出済み (提出日: R8年 8月 1日)
		☐	審査申込書 作成中
	コンソーシアム基本契約の締結状況※2	☐	契約書 締結済み
		☒	準備中
	インセンティブ契約の締結状況※2	☐	契約書 締結済み
		☒	準備中

※1: 提出済みの「資源回収インセンティブ制度_審査申込書」の写しを添付してください。(申請時に必須)

補助金申請時に「インセンティブ制度_審査申込書」の提出が済んでいない場合は、提出予定の審査申込書の案を添付して頂き、正式に提出した後に改めて審査申込書の写しをご提出ください。

※2: 「コンソーシアム基本契約書」や「インセンティブ契約書」について、締結済みの場合は契約書の写しを添付してください。補助金申請時に契約締結が完了していない場合は、契約締結後に改めて写しをご提出ください。

3. 導入を希望している設備

破砕設備①※1	破砕対象物	☒	バンパー
		☒	内装材
		☐	その他 ()
	設備のメーカー	株式会社*****	
	設備名称・型番	資源リサイクル粉砕機ギガシャーク SM200	
	処理能力	0.2 t/h (稼働時間: 8 h/d、処理能力: 1.6 t/日)	
	選定理由	☒	処理能力・スピード
		☐	刃の強さ (金属等の異物が混入しても壊れにくい)
		☐	コストの安さ (□イニシャル, □ランニング)
		☐	メンテナンスのしやすさ
		☒	メーカーの信頼性・実績
		☐	コンパクトで省スペースであること
		☐	その他 ()

破砕設備②※1	破砕対象物	☐	バンパー
		☐	内装材
		☐	その他 ()
	設備のメーカー		
	設備名称・型番		
	処理能力	●● t/h (稼働時間: ● h/d、処理能力: ● t/日)	
	選定理由	☐	処理能力・スピード
		☐	刃の強さ (金属等の異物が混入しても壊れにくい)
		☐	コストの安さ (□イニシャル, □ランニング)
		☐	メンテナンスのしやすさ
		☐	メーカーの信頼性・実績
		☐	コンパクトで省スペースであること
		☐	その他 ()

破碎後の処理 フロー※2,※3	☐	破碎後、そのままの状態で売却する予定。	
	☒	破碎後、再生プラスチックの品質を高めるために自社で追加の処理を行う予定。（→以下の選択肢から、該当する工程をお選びください。）	
	☒	洗浄	☒ 本補助事業での申請を希望する
	☐	比重選別・浮沈選別	☐ 本補助事業での申請を希望する
	☒	脱水・乾燥	☒ 本補助事業での申請を希望する
	☒	磁選機・金属探知機	☒ 本補助事業での申請を希望する
	☒	その他（投入設備、袋詰め）	☒ 本補助事業での申請を希望する
納期※4		発注後、4か月（予定）	

※1：導入予定の破碎設備の情報を記入し、カタログおよび見積書を添付してください。

導入予定の破碎設備が3つ以上ある場合は、記入用の枠をコピーして記載してください。

※2：再生プラスチック原料の品質向上のため、破碎処理後、自社工場で更に洗浄や比重選別等の追加の処理が行われる場合は、該当する処理方法の欄にチェックを入れて下さい。

※3：再生プラスチック原料の品質向上のため、破碎処理後の一体的なプロセスとして洗浄や比重選別等の工程を新たに追加する場合、本補助金の補助対象となる可能性があります。破碎処理後の工程についても補助金の申請を希望される場合は、当該処理方法欄の「本補助事業での申請を希望する」にチェックをつけて頂き、全体の処理フロー図と各設備のカタログ・見積書をあわせて添付してください。

（既に導入されている設備や発注済みの設備は、補助の対象外となります。）

※4：導入を希望する設備について、発注から設置までの納期の見込みをご記入ください。

（本補助金を活用していただく場合、2027年の2月までに設置、試運転、検収までを完了する必要があります。）

※ 今回の補助事業では、1社あたりの事業費の上限金額の目安は、約2,500万円/社（補助率：1/2、補助金額上限目安：1,250万円/社）となっております。複数の分析装置をご希望の場合は、上限金額の目安を参考にいただき、ご記入ください。

4. 使用済自動車からの再生プラスチックの回収状況等

(1) 使用済自動車の受入状況

年間の使用済自動車受入台数※	☒	解体	5,000台/年（2025年）
	☐	破碎	●●台/年（20XX年）

※：直近年度の使用済自動車の受入台数の実績をご記入ください。

(2) 自動車メーカー等への再生プラスチック原料の供給実績

自動車メーカー等※1への 再生プラスチック原料の供給実績	☐	供給実績あり※2 (売却先：)
	☒	実証事業等の実績あり※2 (実証事業の実施年度：2020年～2023年) (共同実施者：株式会社△△商事、□□□化学株式会社)
	☐	供給実績なし 資源回収インセンティブ制度の開始に合わせて新たに取組む予定

※1：自動車メーカー等：完成車メーカー、Tier1等、自動車向けに供給を行うコンパウンダーや商社等の企業

※2：資源回収インセンティブ制度に先行して、既に使用済自動車からの再生プラスチック原料の回収および自動車メーカー等への再生プラスチック原料の供給実績がある場合、あるいは実証事業等の実績がある場合は、その内容をご記入ください。

(3) 再生プラスチック原料の回収量・自動車向け供給量

使用済自動車からの再生プラスチック原料の回収量・自動車向け供給量	これまでの再生プラスチック原料の回収量実績※1		0 t/年（2025 年）
		うち、自動車向け供給実績※1（A）	0 t/年（2025 年）
	破砕設備導入後の再生プラスチック原料の予定回収量※2		50 t/年（予定）
		うち、自動車向け供給予定量※2（B）	40 t/年（予定）
	破砕設備導入後の自動車向け供給量の見込増加量（B—A）		40 t/年（予定）
再生プラスチック原料の売却先社名※3		株式会社△△商事、◆◆◆自動車株式会社	

※1：既に、使用済自動車から再生プラスチック原料を回収している、あるいは自動車向けに供給している実績がある場合は、年間の実績をご記入ください。(実績がない場合は、0t/年とご記入ください。)

※2：本補助事業により破砕機を導入し、資源回収インセンティブ制度へ参画した後の、使用済自動車からの再生プラスチック原料の回収量の見込みや自動車向け供給量の見込みをご記入ください。

※3：自社で破砕した後の再生プラスチック原料の売却先、若しくは売却予定先の社名をご記入ください。(コンソーシアム契約を締結する予定の売却先の社名を記入してください。)

5. 事業の実施体制

バンパーや内装材に付着しているPP以外の異物 [※] の除去方法	☒	手作業のみによる除去 (従業員の当該業務への習熟状況)
	☒	以前から当該業務の実績があり、十分に習熟している。
	☒	異物を除去するためのマニュアル等を社内でも共有している。
	☐	今後、制度の開始に合わせて新たに取り組む予定。
	☐	機械選別のみにによる除去
異物 [※] の除去を行うための作業場所の確保	☐	手作業および機械選別の組み合わせによる除去
	☐	自社では異物の除去は行わず、コンソーシアム内の他の事業者にて異物の除去を行う予定。
異物 [※] の除去を行うための作業場所の確保	☒	確保できている
	☐	未定・確保できていない
破砕前・破砕後の再生プラスチック原料の保管場所の確保	☒	確保できている
	☐	未定・確保できていない
実施体制に係る今後の予定 *将来的に「使用済自動車からの再生プラスチック原料回収のため、新たに従業員の教育を行う予定がある」、「破砕後の再生プラスチック原料の保管場所を新たに確保する予定がある」などの計画がありましたら、右欄にご記入ください。		

※異物：ビス等の金属、PP以外の樹脂等

6. 輸送効率について

破砕設備導入後の再生プラスチック原料の自動車向け供給予定量 (B)		40 t/年 (予定) ※1
再生プラスチック原料を未破砕で運搬する場合の運搬費	未破砕で輸送する場合の積載量 (車両の種類) ※2	0.5 t/台 (4 t車)
	運搬回数 (車両の種類)	80 台/年 (4 t車)
	車両 1 台あたりの運搬費 (車両の種類)	3.5 万円/台 (4 t車)
	年間の運搬費の合計 (C)	280 万円/年
破砕設備導入後の運搬費	破砕して輸送する場合の積載量 (車両の種類) ※2	2.5t/台 (4 t車)
	運搬回数 (車両の種類)	16 台/年 (4 t車)
	車両 1 台あたりの運搬費 (車両の種類)	3.5 万円/台 (4 t車)
	年間の運搬費の合計 (D)	56 万円/年
破砕設備の導入による運搬費の削減見込み額 (C-D)		224 万円/年

※1: 「4 (3) 自動車向け供給予定量」に記載した供給量と同じ数量をご記入下さい。

※2: これまでの事業や実証等で、未破砕状態での積載量や破砕後の積載量が判明している場合は、その数値をご記入ください。
実績がない場合は、おおよその見込みの量をご記入ください。

7. 破砕設備の導入により期待される効果

破砕設備の導入により期待される効果について、該当するものをお選びください。

破砕設備の導入により期待される効果	☒	自動車向け再生プラスチック原料の供給量の増加
	☒	再生プラスチック原料の輸送効率の向上
	☒	再生プラスチック原料の売却費の増加、および ASR の処理費の削減
	☐	その他 ()

8. 事業実施のスケジュール

補助対象設備の交付決定から発注、運搬、据付け、試運転調整、検収確認までの補助事業のスケジュールを記載してください。(この欄に記入しにくい場合は、別紙を添付する形でも構いません。)

事業実施のスケジュール	交付決定	(仮に 2026 年 10 月頭頃とした場合)
	発注	2026 年 10 月頃
	運搬・据え付け	2027 年 1 月頃
	試運転・調整	2027 年 1 月頃
	検収確認※	2027 年 2 月頃
	完了実施報告書提出	(2027 年 2 月末)

※注意: 検収の際は、見積書その他、発注書(注文書)や発注請書(注文請書)、納品書、その他支払い関係の書類等を確認させていただきますので、これらの書類は必ず保管していただくようお願い致します。(口頭のみでの発注は認められません。)

【廃掃法・廃棄物処理関係条例上の手続きの必要性の有無・スケジュール】

(処理施設設置許可、処理業許可等)

自治体（都道府県・政令市）への相談・確認状況	自治体名	*****	
	相談・確認状況	☒ 事前に相談・確認を行っている ☐ 本事業の検討にあたっては特に確認していない	
廃掃法や条例上の 手続きの必要性	☐	手続きの必要性あり （手続きの内容： ）	
	☒	手続きの必要性なし	
(手続きが必要な場合) 手続きにかかる期間	手続きにかかる期間	●●か月	
	手続き完了予定時期	●●年●●月頃	

【騒音規制法・振動規制法関係の手続きの必要性の有無・スケジュール】

自治体（市町村）への 相談・確認状況	自治体名	*****	
	相談・確認状況	☒ 事前に相談・確認を行っている ☐ 本事業の検討にあたっては特に確認していない	
騒音規制法・振動規制法 上の手続きの必要性	☐	手続きの必要性あり （手続きの内容： ）	
	☒	手続きの必要性なし	
(手続きが必要な場合) 手続きにかかる期間	手続きにかかる期間	●●か月	
	手続き完了予定時期	●●年●●月頃	